

# まちづくりと公共交通対策特別委員会記録

1 日 時 平成30年11月29日(木曜日)

開 会 午前 9時58分

閉 会 午前11時12分

2 場 所 第2委員会室

3 出席委員 10人

委員長 村 家 博

委 員 岡 部 享

// 石 森 正 二

// 上 野 蛭

// 押 田 大 祐

// 高 道 秋 彦

// 橋 本 雅 雄

// 金 厚 有 豊

// 赤 星 ゆかり

// 有 澤 守

4 欠席委員 1人

副委員長 松 井 桂 将

## 5 説明のため出席した者

副市長 中村 健一

### 【活力都市創造部】

部長	高森 長仁
理事（活力都市創造担当）	後藤 衛
部次長	舟田 安浩
部次長（技術担当）	中村 雅也
参事（建築指導課長）	粟島 正憲
活力都市推進課長	金山 英樹
都市計画課長	狩野 雅人
交通政策課長	村井 真哉
富山駅周辺地区整備課長	山崎 哲志
路面電車推進課長	高田 秀昭
中心市街地活性化推進課長	堀田 英樹
都市再生整備課長	守山 裕一
居住対策課長	高森 隆
活力都市推進課主幹（調整担当）	卜蔵 雄治

### 【企画管理部】

部長	西田 政司
部次長	前田 一士
部次長（行政改革・公共施設再編・人事管理担当）	田中 伸浩
行政管理課長	大野 満
文化国際課長	片山 建
行政管理課主幹	山口 雅之
企画調整課主幹（調整担当）	開発 則幸

## 6 職務のために出席した者

### 【議会事務局】

議事調査課長	福原 武
議事調査課長代理	石黒 隆司
議事調査課議事係長	中山 崇
議事調査課主事	平瀬 航

## 7 会議の概要

委員長           ただいまから、まちづくりと公共交通対策特別委員会を開会いたします。  
松井副委員長が都合により欠席されますので、御報告いたします。

〔報道機関のテレビカメラ撮影を許可〕

委員長           まず、委員会記録の署名委員に、岡部委員、有澤委員を指名いたします。  
これより、活力都市創造部所管分に入ります。コンパクトなまちづくりに伴う都市的指標調査について、富山市都市マスタープランの見直しについて、富山駅南西街区の利活用について、以上3件を一括して、順次、当局から説明を求めます。

中村副市長       〔挨拶〕

活力都市推進課長   〔コンパクトなまちづくりに伴う都市的指標調査について、  
委員会資料により説明〕

都市計画課長       〔富山市都市マスタープランの見直しについて、

委員会資料により説明]

富山駅周辺 〔富山駅南西街区の利活用について、  
地区整備課長 委員会資料により説明〕

委員長 ただいまの説明について、質問等はありませんか。

押田委員 委員会資料2ページの地区別社会動態（転入－転出）の推移のところで、開発を進めてきた都心地区で転入のほうが増えていると、そして、少し落ちついてきたという説明をいただきました。  
マンション開発などが進んで、合計で多分1,000人弱ぐらいの人数が転入超過になっているということなのですけれども、住んでおられる地区の人口増加にもちゃんと結びついているものなのですか。ちゃんと住民として入っているものなのですか。

活力都市推進課長 この調査につきましては、住民基本台帳をもとにしておりますので、住所を移転して住まわられている方というふうに考えております。

押田委員 私もそう信じたいのですけれども、いずれマンション価格が上がるからという投機の意味

で購入するという話もよく聞きます。また、都会のほうからの週末利用とか、将来の利用のために買っているという話も聞いたことがあります。利用されるのであれば、富山の経済の活性化にもつながることなので、それはそれでいいことだとは思いますが、実際にはこちらのほうに住んでいるという実感、人が増えているという実感がなかなかないのです。そこら辺はどうお考えなのか、教えてください。

活力都市推進課長 確かに投機目的とか、週末においでになるという利用のされ方もありますが、実際に住民基本台帳上、住所を移しておられる方も一定程度おられますので、居住の推進につながっているものと考えておりますし、週末だけ来られる方も週末に来て街の中で買い物や飲食をしていただく、そういったことも街の活性化の効果としてあると思います。マンションの居住については、そういった考えでございます。

押田委員 どこまで調べておられるかわからないのですが、マンションなどで増加している年代層をどのように把握しておられますか。

活力都市推進課長 年代の調査につきましては、今年度に調査を進めておりますので、結果が出れば御報告したいと思います。

押田委員 いずれにしても、先ほど言われたとおり、多少なりとも市のほうに効果があるような形が望ましいと思いますが、今のところ、私の個人的な意見ですけれども、人が増えたなという実感がまだまだないのです。これからも人がいっぱいいて、にぎわうようなまちづくりのために、検討、努力をお願いします。

赤星委員 同じく委員会資料２ページなのですが、平成１７年と平成３０年の人口を比較しますと、マイナス３，８５７人となっております。人口が減った分も合わせますと、公共交通が便利な地域に住んでいる人口割合が少し上がっているのではないかと思うのですが、その便利な地域に住む人口割合がこの１３年間で約２８％から３７．２％となり、人数にしますと３万７，６７７人増えています。やっぱり旧町村の中山間地、特に村だったところの人口減少が激しくなっていると思うのです。純粹に公共交通が便利な地域や中心市街地へ転入されて増えている分と、そうでは

なくしてお亡くなりになったりして減っている分と、その辺を正確に捉えたいと思うのですが、どのようになっているのでしょうか。

活力都市推進課長 社会動態（転入－転出）の推移については、このグラフのとおりです。死亡と出生の数も調査はしておりますので、それについては、後日お示しすることはできると思います。

赤星委員 また別途、示していただければと思います。お願いします。

橋本委員 公共交通が便利な地域に住む人口割合を42%にすると。近年、この伸び率が鈍化していることから、達成するのはなかなか難しいのかなとっておりました。その中で、公共交通が便利な地域を追加したことで、だんだんと目標に近づいているのかなとは思いますが、数字の目標達成ありきになってしまっているのではないかなというような危惧があります。何を言いたいかといいますと、私は藤ノ木地区のことしかわかりませんので、藤ノ木地区を例に言います。

藤ノ木地区の中では、藤の木循環のバス路線沿線がこの便利な地域に入っているところです。この藤の木循環のバスを使っている方は

私たちの地域の中でも本当にごく一部かなというところではあります。いまだに藤ノ木地区というのはやっぱり車があってこそその地域になっているかなと思っております。そういったところで、そういう目標を達成するのも一つなのですけれども、藤の木循環のバスがなぜ使いにくいかということは、一方通行だから使いにくいとよく言われます。

これについては交通事業者が関係してきますので、本市としてはなかなか難しいかもしれませんが、そういった実のある便利な地域というものをしっかりつくっていかねばならないのではないかという思いなのですけれども、いかがでしょうか。

活力都市創造部長 個別のバス交通についての御意見だと思えます。確かに藤の木循環のバス路線は、ループするような運行形態になっておりますけれども、御指摘のように本当に使いやすいかどうかというのは、また富山地方鉄道と意見交換をして、藤の木循環のバス路線だけでなく、市全体の公共交通の水準が、利便性が上がるように協議してまいりたいと思えます。

橋本委員 今、たまたま藤ノ木地区のことをちょっと例に挙げたのですが、やっぱり便利な地域とい



うものをしっかりと実のあるものにして、そこに居住していただくという施策にさせていただきたいという要望でございます。

赤星委員

委員会資料6ページです。今のお話とも関連するのですが、公共交通が便利な地域の追加で、鉄軌道でJR高山本線と地鉄不二越・上滝線が追加となっております。鉄道の場合、線路によって街が分断されておりますので、駅が両側から大変使いやすいということでないとならば、本当の意味で便利な地域ではないと思うのです。

そこで、今回、単純にJR高山本線と地鉄不二越・上滝線の駅からの距離だけで便利な地域の追加をされているのか、そうではなくて、徒歩何分以内で駅を利用できるから便利な地域だというふうに判断されての追加なのでしょうか。

都市計画課長

それぞれの駅からの範囲については、鉄道については半径500メートル、バス停については半径300メートルという基準をもって設定しておりますので、徒歩何分といった概念で設定しているものではありません。ただ、鉄道駅から半径500メートル、バス停から半径300メートルについては、概ね

徒歩でアクセスできる時間あるいは距離というものを加味して設定しているのも、あながち的外れな距離ではないような気もしております。

赤星委員

よく御存じだと思いますけれども、地鉄不二越・上滝線で言うと、朝菜町駅や上堀駅につきましては、片側からですね一本当に目の前、5メートルとか、そういうところに駅があってもまともに歩いていくと10分、15分かかる状況があります。ただ距離だけで半径500メートルというふうにされると正確ではないと思うので、そこはやっぱり正確に再検討をお願いしたいと思うのです。

駅へのアクセスが改善されるまでは、そういう状況も反映していかないと不正確なものになるので、再検討していただきたいと思うのですが、いかがですか。

活力都市創造部長

特に鉄道は御指摘のとおり、踏切が近い、あるいは離れているということが幾つもございます。JR高山本線にもそういった駅が幾つもございます。今おっしゃるような徒歩圏域を、それぞれ迂回が生じることを差し引いて一回一回、全部を地図で線を引いて圏域を出すということは非常に複雑です。では半径5

00メートルがアクセス圏域になる、では半径750メートルでもいいのではないかなど、いろいろな御意見がございます。

そういった中で、割と半径500メートルという圏域であれば、必ずしも一何と言いますか、半径600メートルあるいは半径700メートルあれば駅へアクセスできる、そういった圏域を半径500メートルとしておりますので、この設定の仕方については、今のところ見直しは考えておりません。

ただ、御指摘のように、アクセス改善に向けてはこれまでも事業者としっかり協議を進めておりますので、改善できるように引き続き協議をしてまいりたいというふうに思っております。

赤星委員

今、見直しは考えていないということですが、そうなってきますと、何のための数字なのかというところもあるのです。

橋本委員もおっしゃったように、せっかく便利な循環バスがあっても御利用が少なかったりとか、駅は目の前だけれども利用していないという方がほとんどだったりすると、では何のために数値を目標にしたり、見直して追加をしたりするのかなというところに疑問を抱くわけで、そのところはぜひ今後検討し

ていただきたいと改めて申し上げたいと思います。

上野委員 委員会資料3ページの図7、図8のグラフで、今ほどほかの委員の方も言っておられたのですが、転入者の状況はわかるのですけれども、ここの地域を実際に選ばれた理由についての調査は何かされているのでしょうか。

活力都市推進課長 この調査につきましては、住民基本台帳の調査のみでして、その方に対して、どうしてここを選んだかという調査は行っておりません。

上野委員 そうしましたら、実際に公共交通が理由でここを選ばれたのかどうかということと公共交通が結びついているのかどうかで、数値目標があまりつながっていないのかなと感じましたので、今後もし可能であればそういった調査も結びつけてしていただければと思います。

赤星委員 委員会資料8ページに、(3)将来生活像に「歩きたくなるまちづくり」の追記として、都心地区、地域生活拠点、農山村部や郊外部の既存集落とあります。これは歩きたくなるまちづくりを追記するということですが、コンパクトシティ政策は、先ほどのように公共

交通が便利な地域にだんだん誘導していくという政策ですけれども、やはりそれぞれの中山間地にも人が住み続けられるような施策というものがどうしても必要だと思うのです。特に、近年、豪雨災害などがありますから、中山間地で農業や林業に携わりながら暮らしていただく方というのは、いなくなると本当に大変なことになると思うのです。

先日、総務文教委員会の委員会視察で高知県などに行って移住計画の勉強もしてまいりましたけれども、そういったところにも暮らし続けられるような一ただ外出機会の創出とか、歩きたくなるまちづくりということだけではなくて、産業、農業、林業をどうやって維持していくのか、そういったところの政策というのはきちんと位置づけられているのでしょうか。

都市計画課長

今回、将来の生活像にこういった歩きたくなるまちづくりの考え方を追記するという事です。もともと、コンパクトシティは歩いて暮らせるまちづくりというところからスタートしているので、これを一步前進して、歩くライフスタイルを念頭にこういった概念を構築しております。

今、委員がおっしゃったように、農山村部や

郊外部の既存集落につきましては、ここに簡単に記載してありますが、歴史、文化、観光などの地域資源を活用するといったことや地域の拠点とコミュニティバスで結ぶといったことも、この歩きたくなるまちづくりの概念の中に盛り込もうとしておりますので、こういったことを基本に今言ったことについて取組みを進めていくことになると考えております。

赤星委員 今おっしゃった農山村部での歩きたくなるまちづくりというのは、どこを歩きたくなると考えたらいいのでしょうか。

都市計画課長 地域の集落、コミュニティが形成されている既存の集落ですとか、大規模な地区センターですとか、公民館がある周辺も地域生活拠点として形成されておりますので、そういったところにアクセスする道路ですとか、歩道ですとか、それから公共空間もたくさんございますので、そういったところを対象としてイメージしております。

赤星委員 旧町村の役場ですとか、今は地区センターになっておりますけれども、そういった生活拠点で公共交通が便利な地域に位置づけられて

いるところがありますか。

都市計画課長 中山間地で便利な公共交通に位置づけてある場所ということ言えば、現在、例えば中山間地の細入地域ですとか、山田地域などにつきまして、今回新たにＪＲ高山本線あるいは地鉄不二越・上滝線が追加されましたので、ＪＲ高山本線については細入地域の楡原駅、猪谷駅周辺が、公共交通が便利な地域となります。

赤星委員 なぜお聞きしたかと言いますと、そういったところの地域生活拠点にも居住を誘導していくのか、それとも減少するに任せておくのか、そういったところが気になっているもので、お聞きしました。

委員会資料９ページですけれども、さかな屋撰鮮は私も利用したことがございます。やはり富山と言えば、魚がおいしい、お酒がおいしいところなので、大事な社会実験であろうなと思っております。今度、ＪＲのホテルや商業施設ができるということで、こういった施設がリニューアルして新しい建物に入ってくる可能性を期待していいということなのでしょうか。

富山駅周辺  
地区整備課長 今回、御報告させていただいたのは、今、社会実験という形でさせていただいているのですが、ニーズも非常に高いことから、継続していく必要があると。その中で、特に今、JRグループの施設は2022年春に開業を予定しております。

それまでに時間がありますので、JRグループの施設に入る、入らないということは私どものする話ではないのですが、少なくともそれまでには何の施設もできないという中で、富山駅周辺で新たにしっかり店舗を構えられないかということで検討しております。JRの施設と直接関係しているものではないです。

赤星委員 委員会資料12ページなどとも関係があるのですけれども、現在、市有地とJRの土地と合わせて暫定の駐車場になっておりまして、これは駅への送迎の方にも店舗利用の方にも非常に便利ですよね。これがなくなることを心配しているわけですが、それについては代替の駐車場ということなのではないでしょうか。立体駐車場になるということなのではないでしょうか。

富山駅周辺  
地区整備課長 委員会資料13ページにもございますが、それこそJRの用地のほうには平面の駐車場が



ございます。この新しい施設も立体駐車場、あとは5階の上を屋上の駐車場として、約400台分の駐車場を今、計画しておられます。

赤星委員 今現在は何台分あるのですか。

富山駅周辺  
地区整備課長 すみません。資料を持ってきておりません。

石森委員 今の件に関連して、2022年春開業予定ですが、工事期間はどのくらいを見ておりますか。

富山駅周辺  
地区整備課長 委員会資料13ページ(7)事業スケジュールのところに、2019年12月に事業用定期借地権設定契約締結と記載しております。この契約締結後に実際の工事にかかります。2022年春の開業は当然、中の準備も含めてですので、それを若干差し引いた分が実際の工事期間になろうかと思えます。

石森委員 その期間は工事中ということなので、当然今の駐車場が使用できなくなるということです。私もその駐車場を利用するのですけれども、その期間における駐車場不足と言えはいいのか、そういったことについては何か考えがあ

るのか、お聞かせください。

富山駅周辺  
地区整備課長 提案者のほうからも、その代替となるものを今、検討しているということです。具体的には決まってはいいのですが、代替を検討してはもらっちゃいます。

石森委員 委員会資料13ページのこの図面からいきますと、左側のほうに富山駅南北線（新設）ということで、最終的には駅の北側まで道路をつくると思うのですが、これはこの工事前後はどのような形になるのか。というのは、先にここがつくられていれば、北側のほうの駐車場は今、それなりの場所にありますので、工事期間中にそういったところの利用もある程度できるのかなという思いもあるのです。とにかく駅を一時的に利用される方の駐車場としては非常に便利ですので、ぜひ業者のほうの代替の話も含めて、市と十分に協議をしていただいて不便にならないようお願いをしたいと思います。これは要望です。よろしくをお願いします。

押田委員 委員会資料8ページの将来像に「歩きたくなるまちづくり」を追記するということで、この「歩きたくなる」というのは、だいたい

1日当たりどれだけの距離を歩きたくなるというふうに言っているのか、1週間に1キロメートルなのか、非常に不明瞭と思えますが、まずそこから教えてください。

活力都市創造部長    そもそも都市マスタープランの思いは、まさに集約都市構造と歩いて暮らせる、公共交通沿線で高齢になっても公共交通がなくならないような環境で暮らしたい、暮らせるというものをそもそも目指しております。

今ほど御指摘の、ではどのくらい歩けば歩きたくなるのかとか、歩けるということなのかということでございますけれども、これは個人差があると思います。

例えば、車一辺倒で生活している方が1週間に1回あるいは2回歩いていただける、そういった取組み、あるいは、いつも歩いている方はさらにプラス1,000歩とかですね。

いろいろなやり方があると思いますので、ここで一概に、例えばプラス1,000歩がいいとか、そういうことではなくて、それぞれのライフスタイルに応じてできるだけ歩いていただきたいという思いを込めたつもりでございます。

押田委員            なぜこのことを聞いたかということ、歩きたく

なるというのが健康づくりのためなのか、それとも人間のライフスタイルというかレジャーのためなのか、はたまた生活をするためなのか、そして最後、本市のことですから、まちづくりのために歩きなさいというふうに言っているのか、言葉にしてしまうといま一つぼやけると思うのです。

理想は理想として今受け取ったのですけれども、では都心地区、地域生活拠点、農山村部などというふうにいろいろありますが、私は都心地区でいろいろ歴史的なところを回ったといったこともやっておられたのを知っております。生活ということで考えれば、スーパーに行っただけ歩くのだとか、逆にこの富山市というのは歩かないと暮らせないまちなのではないかなというふうに思っているわけなのですよ。郊外のところに車で行ってという話になればいいのですけれども、実際に車がなくなったら、私どもの住んでいる地域生活拠点だと、歩いてでは暮らせないまちまで今度は落ちてくるわけですよ。そこら辺はどうお考えですか。

確かに豊かになれば、豊かさを感じれば、歩いて暮らせてああよかったねという話になるのですけれども、実際、生活の苦しさから言うと、歩いてでは暮らせない、歩かないと暮

らせない、そこら辺はちょっとずれると思うのですよ。理想はいいのです。現実をどう捉えておられるか、教えてください。

委員長

個人差があるから一先ほど部長も言われたように、魅力あるまちづくりというものが原点にあるのですよ。ただ、それはいろいろな考え方があって、部長、これについてはどうですか。

活力都市創造部長

端的に言いますと、我々のライフスタイルの質を高めるということが最終目標だと思っております。そう考えたときに、やはり究極は健康で暮らすということかと思えます。そういった意味で都市計画、交通、福祉、あるいは先ほどからの話にございます産業、農林、漁業、あるいは行政サービスも含めて提供する。そういう中で質を高めるということの究極はやはり健康に暮らす、健康寿命を延ばすということだと思えます。

委員御指摘のように、その中で目的がたくさんあると思えます。例えば、買い物に行くときに歩く、通勤・通学で歩く、あるいはレジャー、観光、文化、スポーツもそうですけれども、あるいはそもそも健康を目的にしている方もいらっしゃると思います。

そういういろいろな分野でもう少し、もう1歩歩けるような仕組みづくりを都市計画だけではなくて、福祉も教育も全部含めて今やっている事業で、もう1歩それぞれ歩けるような環境をつくっていけば全体的に上がっていくと、そういうことを今、分野横断でやりたいというふうに思っております。

岡部委員

先ほど、赤星委員も少し触れましたけれども、今の駅前のアンテナショップ、さかな屋撰鮮は予定では2019年夏までの営業というふうになっています。新しい施設に入るかどうかはわからないというのはわかりますけれども、次の施設は高級感のあるホテルということなので、市場的な今のさかな屋撰鮮というのは富山市としては非常にPRができるところだと思っています。

そういう意味では、社会実験の中でも引き続き継続してできるという傾向、回答が出ていますので、市としてできれば責任を持って代替地を用意して、ぜひそういう方向で進めていただきたいというふうに思っています。

委員長

ほかにありませんか。

〔発言する者なし〕

委員長           ほかにないようでございますので、この程度にとどめます。  
以上で、活力都市創造部所管分を終了いたします。  
説明員を交代いたしますので、しばらくお待ちください。

〔企画管理部入室〕

委員長           これより、企画管理部及び活力都市創造部所管分に入ります。  
株式会社富山市民プラザと株式会社まちづくりとやまの統合について、当局から説明を求めます。

企画管理部長    〔挨拶〕

企画管理部次長  〔委員会資料により説明〕

委員長           ただいまの説明について、質問等はありませんか。

赤星委員       平成30年6月定例会の総務文教委員会と建設委員会で、それぞれ経営状況報告があったところなのですけれども、先ほどまずは外郭団体の経営改善をという話もございました。

株式会社富山市民プラザと株式会社まちづくりとやまのそれぞれの経営状況について、どのように評価をしておられるか、改めてお伺いいたします。

文化国際課長 平成30年6月定例会で御説明をいたしました  
が、株式会社富山市民プラザにおきましては、平成29年度は500万円余りの黒字を出している会社であり、経営については安定しておられるというふうに認識しております。

中心市街地 株式会社まちづくりとやまにつきましては、  
活性化推進課長 平成29年度は当期純損失が580万円余りのマイナスとなっており、赤字という形になっております。

赤星委員 それぞれの主な収入はどのようになっている  
のですか。市民プラザは市の施設が幾つも入  
っているのです。富山市からの家賃収入がかなり  
あるのではないかと思うのですけれども、  
それを含めてお聞かせください。

中心市街地 平成30年度のまちづくりとやまの予算で  
活性化推進課長 ございますけれども、全体で4億8,200万  
円余りとなっております。このうち、富山市  
からの補助金、委託金につきましては、私ど



も活力都市創造部と農林水産部、商工労働部を合わせまして、1億4,400万円余りとなっております。あとは、富山商工会議所の負担金等でございます、自己資金も1億960万円余りとなっております。

文化国際課長 富山市民プラザの家賃収入は、4億5,500万円余りとなっております。

赤星委員 市民プラザの家賃収入4億5,500万円余りのうち、富山市からの家賃収入というのはどれぐらいでしょうか。

文化国際課長 富山市では、市民プラザホールと市民学習センター、外国語専門学校、総曲輪公民館をお借りしておりますけれども、富山市合計といたしましては、年間で5億9,100万円余りとなっております。

これは違ってきますね。すみません。月額が4,948万5,000円となりまして……

企画管理部次長 富山市民プラザの家賃収入は、年間で4億5,600万円余りでございます。

赤星委員 先ほど、家賃収入が4億5,500万円とおっしゃいませんでしたか。

文化国際課長 富山市以外の民間のテナントも入っていらっ  
しゃいますので、それを含めた金額でございます。  
すみません。先ほどの5億9,100万円と  
いうのは、間違えました。共益費が入ってい  
て……。  
富山市分の家賃収入については、年間4億5,  
600万円余りでございます。全体では……。  
ちょっと整理します。すみません。

委員長 赤星委員、今調べていますので、ほかに聞く  
ことはありませんか。

赤星委員 富山市民プラザの長期債務はどうなっている  
のかなど。市街地再開発事業の総曲輪通り・  
西町のグランドパーキングは、株式会社富山  
市民プラザとして取得されましたけれども、  
そのとき、35億円のうち、国が15億円、  
市が15億円で、あとの5億円を市民プラザ  
が借金をして買うという計画だったと思うの  
です。その返済はもう終わっているのか、ま  
だあるのか。  
そのほかにも長期債務というのは、どうい  
う状況になっているのか、教えてください。

文化国際課長 富山市民プラザのグランドパーキング取得費

の借入金5億円につきましては、平成16年度から平成27年度の12年間で返済するというになっておりまして、返済自体はもう完了しております。ほかの長期の借入れについては聞いておりません。

赤星委員 まいどはやバスは、株式会社まちづくりとやまで運行しておられますよね。財産の無償貸付けの件で「事務所等」とあります。バスは市民プラザにそのまま移行するということがよろしいのでしょうか。

中心市街地  
活性化推進課長 まいどはやバスの運行につきましては、富山市から補助金というような形で出しておりますが、この事業はそのまま富山市民プラザに引き継ぐという形になります。

赤星委員 今回の2つの外郭団体の合併で、今触れましたまいどはやバスなどを含めまして、市民の利便性向上などにつながったらいいなと思っているのですけれども、合併による市民生活へのメリットはどんなふうに展望しておられるのでしょうか。

企画管理部次長 今回の両団体の合併のメリットといたしましては、例えば市民プラザは、今ほど委員もお

っしゃったように、グラウンドパーキングを所有し、運営しております。その隣のグラウンドプラザー総曲輪フェリオの横ですが—これはまちづくりとやまが指定管理者として運営しているということで、それぞれが所有したり管理したりしている施設が両隣にあるということでもありますとか、富山市民プラザは大手モールを中心ににぎわい創出のためのいろいろなイベントをやっておりました。

一方でまちづくりとやまは、総曲輪通りや西町、中央通りなどを中心とした商店街の皆様と一緒に商店街の活性化やにぎわいづくりをやっておりました。

今回はそうした両団体の合併によって、これまで分かれていたものを一体的に、エリアを全体として、いろいろなイベントを柔軟に、しかも効果的に展開するということができるというふうに考えております。そうしたことによって、にぎわい創出効果もさることながら、市民生活の利便性の向上といったことも必然的に図られてくるということを期待しているところでございます。

文化国際課長 先ほどは大変失礼いたしました。税抜きと税込みでちょっと混乱しておりました、大変申しわけなかったです。

いわゆる税抜きで言いますと、富山市民プラザの家賃収入は、全体で4億5,500万円余りとなっております。

そのうち、富山市分の家賃収入については、3,519万7,000円余りが税を掛ける前の金額でございます。

委員長 月額ですね。

文化国際課長 そうですね。これは月額になりますね。年額で4億2,200万円余りになります。

赤星委員 今おっしゃった家賃収入について、内訳も含めて、資料を後でいただきたいのですけれども。

企画管理部長 これはもう一度整理しまして、改めて皆さんに提出させていただきます。申しわけありませんでした。

押田委員 要望なのですけれども、委員会資料1ページの趣旨に「両団体を統合した場合、事業の総合的・一元的な実施が図られ、より効率的・効果的な推進が可能」というふうにあって、一体何のことかなということでは実は全くわからなくて聞こうと思っていたのです。今ちょ

うど企画管理部次長が詳しく説明して下さったのですが、もっとわかりやすい資料にしてください。ちょっと官僚的な言葉が並んでいて、何のことだというのが正直な感想です。これは要望です。よろしくお願いします。今言われたらすごくわかりやすかったので、具体的な事業を書いていただくとありがたいです。

岡部委員 委員会資料1ページの基本的合意事項の3番目のところでありますけれども、従業員の処遇のことが書いてあります。まず、それぞれの現状での正規職員、非正規職員の従業員数についてお聞かせください。

文化国際課長 ことしの4月現在になりますが、富山市民プラザのほうは、いわゆるマネージャーからパート社員まで含めて全部で18名在籍しております。

企画管理部次長 ちょっと補足させていただきます。18名の内訳はプロパーが11名、臨時・嘱託の方が7名ということでございます。

中心市街地活性化推進課長 まちづくりとやまの従業員でございますが、平成30年3月末現在で合計24名おります。

内訳でございますが、役員が1名、正社員が1名、任期付職員が1名、残りは臨時職員となっております。

岡部委員 臨時職員は21名ですか。

中心市街地  
活性化推進課長 失礼しました。臨時職員が14名で、それとは別に各企業のほうから出向いただいております者が7名おります。

岡部委員 委員会資料には、従業員を引き続き雇用すると書いてありますが、これは全員ということでもいいですか。

中心市街地  
活性化推進課長 そうでございます。

岡部委員 出向の方を除いてですか。

委員長 一緒です。そのままスライドするという意味です。  
ほかにありませんか。

〔発言する者なし〕

委員長 ほかにないようですので、この程度にとどめ

ます。

以上で、企画管理部及び活力都市創造部所管分を終了いたします。

これをもって、まちづくりと公共交通対策特別委員会を閉会いたします。



平成30年11月29日  
まちづくりと公共交通対策特別委員会記録署名

委員長 村家 博

署名委員 岡部 享

署名委員 有澤 守